

## 日本ボッチャ協会競技規則 2025-2028 v1.0 の一部規則の明確化について

一般社団法人日本ボッチャ協会

国際連盟（World Boccia）からの追加情報に伴い、日本ボッチャ協会競技規則 2025-2028v1.0 の一部規則の明確化を示します。

この補足事項の運用範囲は、弊会が主催する以下の大会となります。

- ・ 日本ボッチャ選手権予選会（各地区ブロック予選）
- ・ 日本ボッチャ選手権本大会
- ・ オープンチャンピオンシップ
- ・ その他強化選考会等、日本ボッチャ協会競技規則を適用して試合を行う大会等
  - \* 各大会の申し合わせ事項についても参考にしてください。
  - \* フレンドリーマッチ規則を使用する大会における補足事項の運用は、各大会主催者の判断となります。

なお、弊会主催大会での適用は、2026年1月開催の第27回日本ボッチャ選手権本大会から開始しております。

この公表に関する問い合わせについては、  
一般社団法人日本ボッチャ協会問い合わせ  
フォームをご使用ください。

一般社団法人日本ボッチャ協会  
ルール審判部

### ● 規則 8 プレマッチボールチェック

選手またはサイドは全てのコールルームの検査で適格となった残りのボールを使用して競技を行う。1人の選手が同じ検査の中で複数のボールの違反があった場合であっても、違反に対して提示されるイエローカードは1枚のみだが、その選手は没収されたボールの数だけ少ない球数で試合を行う。

⇒試合開始時に少なくとも3球のカラーボールが必要である。

個人戦/ペア戦/チーム戦のどの部門においてもプレマッチボールチェックで4球以上のカラーボールが不適格となった場合、その時点で没収試合となる。

### ● 規則 8 プレマッチボールチェック

ボール検査において1つ以上のボールが没収された場合、当該チーム/ペアは、少ないボールで競技を行う選手を選択できる（規則16.9.3参照）（当該チーム/ペアは、エンドごとに少ないボールで競技を行う選手を変更することができる）。

⇒各エンドで各選手に分配できる最大の球数は、ペア戦は3球、チーム戦は2球である。

また、各選手に少なくとも1球のカラーボールが分配される必要がある。

### ● 規則 10.14 ドロップボール

選手がボールをしっかりと握っていない時に（例：ボールの保管場所から拾い上げる、またはアシスタントからボールを渡してもらう時、あるいはランプにボールをセットする時）落下したボールは、明らかに偶然に落下したものであり、投球とは無関係である。そのボールは落下地点にかかわらず選手に返却される。

⇒BC3クラスにおいて、ランプオペレーターがランプ内で止めたボールや、ランプからは出たが自身のスローリングボックス内で止めたボールは再投球が可能である。

この時、ランプオペレーターがボールを止めたとしても、持ち時間の計測は継続される。

ただし、ROが止めきれずプレーイングエリアに入ったボールは、選手がボールをリリースしていないかったとしてもリトラクションとなる。

### ● 規則 11 次のエンドの準備

審判が「Time!」とコールした時（持ち時間の終了）、投球サイドの選手はスローリングボックス内にいなければならない。SA、RO、コーチは所定のエリアにいなければならない。相手の選手は、

自身のスローイングボックス後方に位置し、自分への投球指示に備えて「プレイする準備ができる」とい 状態でいなければならない。エンド中の試合に必要なすべてのアイテムは、自身のスローイングボックス内または車椅子の上に保持しなければならない。(ボールやランプの部品など)。ペナルティ：試合を遅らせたことに対するペナルティボール（規則 16.6.7 参照）。

⇒ジャックボールを投球するサイドは、エンド開始時に選手もランプオペレーター（BC3 クラスの場合）も自身のスローイングボックス内にいなければならない。

ジャックボールを投球しないサイドの選手、ランプオペレーター（BC3 クラスの場合）は、ボックス後方外や空いているボックス側など、自身のスローイングボックス外にいても構わない。ただし、エンド中に使用する道具については、自身のスローイングボックス内または車椅子上に保持しておかなければならない。

#### ● 規則 12 ディスラプティッド（無効）エンド

規則 12.2 エンドは、審判の行動（例：審判がボールを蹴ったり、間違った色を示したり）またはサイドのミスや行動により中断されることがある。

⇒審判の行動により選手やサイドが間違った決定が導かれた場合（例：審判に得点を確認した後、残りのボールを投球しなかった）は、ディスラプティッドエンドと考えられ、得点が異なる場合はそのエンドをやり直さなければならない。もし、残りのボールを投球しなかっただけであれば、投球されなかったボールを選手へ返し、エンドを続行する。

BC3 クラスの試合でこの状況が発生し、エンド得点計測のためにランプオペレーターが振り返ってブレイングエリアを見ていた場合も、投球されなかったボールは選手に返却されエンドを続行する。この時、再開後の 1 球目を投球する前に 2 ウェイ・スイングをしなければならない。2 ウェイ・スイングをしなかった場合は、規則 16.5.7 に従って投球されたボールはリトラクションとなる。

#### ● 規則 16.7 リトラクションおよび 1 球のペナルティボールが科される反則行為

規則 16.7.2 投球時、ランプがスローイングラインのいずれの部分であれ越えていた場合（規則 4.1.4 参照）。

⇒投球時に使用していないランプのエクステンションがスローイングラインを越えていたとしても、この罰則は科されない。ただし、使用していないエクステンションがスローイングラインを含むいずれかのラインに触れている場合は罰則の対象となる。